

令和4年度 特別養護老人ホームふるさと事業報告

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

2階フロア

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② 自立支援・重度化防止と認知症ケアの充実を図る
- ③ 介護人材の確保と現場改革
- ④ ご家族・地域との連携
- ⑤ 悔いの残らないターミナルケアの実践

3階フロア

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② 丁寧なケアを心掛け個別ケアでご利用者の重度化を防止する
- ③ 職員の介護技術向上とキャリア構築
- ④ ご家族や地域住民の方に愛される施設づくり
- ⑤ チームで行う看取り介護の実践

【実践報告】

① 【2階】 感染症や災害への対策強化

【3階】 感染症や災害への対策強化

- ・8月ロングショートの方1名の陽性確認。お一人のみで感染拡大せず経過した。しかし12月2階ご利用者23名・職員13名のクラスター、1月3階ご利用者3名・職員1名、2月3階ご利用者27名・職員2名のクラスターが発生している。多床室のため、お一人感染すると同室者も罹患しているケースが多くあった。また無症状の方も多く、隔離することでADLの低下も懸念されたため、ゾーニングを実施しレッドゾーン内で自由に動けるような環境を整えた。12月のクラスターでは職員の罹患者が多く、人員不足が発生したが看護師や3階介護士の協力も得てなんとか乗り切ることが出来た。
- ・令和3年度のクラスターと違い、ウイルスの侵入経路がはっきりと断定できないため、再度感染対策の徹底を行っている。
- ・1日4回(公休日は1日2回)の検温の実施、うがい・手洗いの励行、少しでも体調に異変を感じれば相談する、ワクチン接種など職員も出来る限り「もらわない・持ち込まない」感染症対策を継続して実施している
- ・ご利用者に対してはもし感染者が確認された場合、最小限の隔離対応で済むように居室ごとの食事席・介助、居室ごとの入浴などを行っている。
- ・退院者に対して、退院前のPCR・抗原検査の実施、退院後1週間の個室隔離を実施しこちらも「持ち込まない」感染対策をしっかりとっている。しかし、感染

症に対して過剰に神経質になっているところもあるため、その時々状況に合わせて適切な判断ができるよう得た知識を発展させていきたい

- ・コロナ対応については随時更新されているため、常に最新の情報に則したマニュアルの作成・更新をおこなっていききたい
- ② 【2階】 自立支援・重度化防止と認知症ケアの充実を図る
- 【3階】 丁寧なケアを心がけ個別ケアで重度化を防止する
- ・ケアプランの更新ごとに行われるアセスメントをケアマネジャーや担当者だけでなく多職種で確認し、その時のご利用者に応じたケアプランを作成出来るように変更した
 - ・認知症ケアについて、専門的知識を得るために外部研修も視野に入れ積極的に定期的な開催を企画していたが、今年度は計画通りに実践が出来なかった。慢性的な職員不足も原因の一つと考えることが出来るため、職員の補充と定着も重要な課題となった。
 - ・接遇チェック表をうまく活用できなかった。定期的に見直し・実施出来るように、使いやすい書式に変更させていきたい。
 - ・全体で行うレクリエーションはほぼ毎日実施していた。しかし毎回同じ内容を繰り返していることも多くなっている。
 - ・余暇活動について、集団で行うレクリエーションは実施出来た。しかし、ご利用者一人ひとりに応じたレクリエーションは実践出来ていない。今後はご利用者の希望なども取り入れ、個々に応じた余暇活動や選択できる余暇活動など新たな取り組みを発展させていけるよう、知識を深め実践力をつけていきたい
 - ・コロナ禍が続き、外出行事を企画する機会は減っている。今年度は花見やあじさい見物、その他屋上への散歩を実施した。来年度はさらに外出の機会を確保したい。
- ③ 【2階】 介護人材の確保と現場改革
- 【3階】 職員の介護技術向上とキャリア構築
- ・インカムは職員間のコミュニケーションツールとして活用出来ている。今後は情報共有の場面で役立てられるように使い方をシステム化していきたい。
 - ・眠り Scan は夜間のご利用者の様子を確認する際に、個々のスタッフが自然と睡眠日誌を確認するようになってきている。しかし、結果の確認を行うだけに留まっているので、対応方法を考え実践出来るように発展させていきたい。
 - ・職員同士はお互い助け合うことは出来ている。今後は「仲が良い」こと「チームワーク」は異なるものであることをしっかり理解させ、お互い「傷を舐め合う」のではなく「高め合える」関係性を築けるよう発展させていく。
- ④ 【2階】 ご家族・地域との連携
- 【3階】 ご家族や地域住民の方に愛される施設づくり
- ・面会を窓越しにしているため、対応する職員が限られておりご家族と担当職員がコミュニケーションを取る機会が減っている。次年度はご家族と担当職員がもつ

と密に関われるよう面会の在り方や連絡方法を検討する。

- ・地域とはほぼコミュニケーションが取れていない。令和5年に入ってのクラスターを鑑みると無条件に行事等で交流を再開させることも難しいため慎重に検討していきたい。

⑤ 【2階】悔いの残らないターミナルケアの実践

【3階】チームで行う看取りケアの実践

- ・年間12名の方の看取り介護を行った。コロナ禍ではあったが、看取り期の方は個室に移動していただき、比較的自由に時間の縛りもなくご家族に付き添っていただいた。看取りにしっかり寄り添うことで「ふるさとでよかった」というお言葉もいただけている。引き続きご利用者本人のケアはもちろん、ご家族へのケアもしっかり行っていきたい。
- ・入浴は体調・体力が許す限りミスト浴で入っていただけた。
- ・シートを活用し、利用者・ご家族の意向を聞き取り出来る限り実践出来るようチーム全体で取り組めた。しかし定期的にシートの更新が出来なかったため、仕組みづくりをしっかり行っていきたい。

【総括】

今年度も引き続きご利用者の入れ替わりが激しく、総勢21名の入れ替わりがあった。ここ最近の入居申込者の傾向としては、以前のように申し込みを出して順番を待つという方はほぼおられず、今直ぐ入居したいと希望される方が増えている。その為受付後の状態確認で既に他施設からの面談など入っている方も多く、面談の方法などを変えていく必要があると感じた。また男性待機者が増えてきているため、令和4年10月～11月にかけて、男性部屋を1部屋増やす入れ替え期間を設けた。

令和4年度年間稼働率目標を特養入居・ショートステイ併せて99.5%としていたが、クラスターが起きるとどうしてもショートステイのキャンセルが続き稼働が落ちてしまい、実際には97.8%と下回ってしまった。

次年度は稼働を維持できるよう新規利用者の確保に努めるとともに、感染症対策をしっかり行いつつも利用者に施設外にも出ていただけるよう余暇活動を充実させていきたい

【神戸市への報告を必要とした事故】

報告件数：2件

(令和4年6月5日(日)9時30分発生)

2階配膳室前廊下にて、職員が目を離した間に前のめりに車椅子より転落。その際頭部打撲し、そのまま床で擦ったようで前額部から頭頂部にかけて広範囲に裂傷あり。救急搬送し縫合手術を受ける。

(改善内容)

危険予測をしっかり行い介助中は基本的にその場を離れない、離れる場合は他の職員に声をかける、利用者に安全な場所に移動してもらう等の対応を徹底する。会議

内でも検討行い情報共有行った。

(令和4年8月9日(日)21時25分発生)

物音を聞いた職員が駆け付けたところホールにて右側臥位で倒れているところを発見。痛みの有無を確認すると右大腿付け根辺りの痛みの訴えが強い。夜間安静対応し、翌朝病院受診し右大腿骨頸部骨折との診断。当日人工骨頭置換術を受ける。

(改善内容)

夜間の状態が安定してきており、センサーマット対応を終了した利用者だった。センサーマット解除する際はもう少し様子を見る、眠り **Scan** のアラートを活用するなど段階を踏んで行うようにする。

【苦情件数】

苦情件数：0件